

血液検査学実習の紹介

香川県立保健医療大学 保健医療学部 臨床検査学科における血液検査学実習について

本学は1学年が臨床検査学科20名という少人数制のため、学生に対して臨床検査技師として医療に貢献できる技術を習得させるべく、きめ細やかな指導を実践できることが特徴です。さらに高度な医療技術を通じた研究を実践する場として大学院前期・後期課程が設置されています。臨床検査学科でのカリキュラムは、1年生は教養科目、2年生から専門科目の授業が始まります。3年生では前期に学内実習を行い、後期では香川県内の病院検査室における臨地実習に3か月間向かいます。4年生は、希望した分野に1~2名ずつ分かれ、卒業研究に取り組みます。毎年9月下旬に卒業研究発表会を開催し、各自の研究成果を発表することでプレゼン能力の向上を図っています。就職先の多くが病院検査室、検査センター、健診センターで、臨床検査技師として働く学生が9割以上を占めています。

3年生前期での血液検査学実習では、健常者の末梢血像や造血器腫瘍が否定された骨髓血像を鏡検して正確に細胞を鑑別する技能を習得させ、そのうえで造血器腫瘍の標本を観察し、細胞形態の違いを確認してもらいます。また、細胞形態に合わせてフローサイトメトリーの結果の見方や遺伝子染色体検査の重要性を講義します。可能な限り細胞像の印象があるときに、その他の検査値も覚えてもらうことが理解しやすいのではないかと考え、実践しております。また、基本的な塗抹標本作製、染色手順についても臨地実習前の実習到達度試験を1人ずつ実施して評価および指導をしています。



写真1



写真2

新型コロナ感染対策として、20名の学生を2つの実習室に分けて換気や消毒等に十分に注意をはらい実習しています(写真1,2)。実習前の注意点や説明を、各実習室で行う必要があるなど多少の問題はありますが、学生が受ける教育の質を確保するために工夫をしております。鏡検実習では、複数の教員が質問に答えられるように各実習室の担当を決めて配置され、学生へ積極的な細胞像に関する質問を促します。個々の細胞が鑑

別できる喜び、そして講義で習得した疾患の知識が結びつき自分なりに疾患を推察する楽しみを感じてもらい、まずは学生に興味を持ってもらうことが大変重要なことであると考えております。

将来、1人でも多くの学生が医療機関において医療に貢献し、臨床検査業務にやりがいを感じるような充実した人生を歩んでもらいたいと思います。

香川県立保健医療大学 保健医療学部 臨床検査学科
池亀彰茂、近藤明宏